

韓国語のスピーチレベルシフトの現れ方とその要因をめぐって
—映画シナリオをデータとして—

金アラン
上智大学

1.はじめに

韓国語の聞き手待遇法は、終結語尾によるスピーチレベルで表される。動詞「하다(する)」で各スピーチレベルに名前をつけて待遇度が高い順から並べると、합니다体、해요体、하오体(以上、丁寧体)、하네体、해体、한다体(以上、非丁寧体)のようになる。また、韓国語のスピーチレベルは格式性の有無によって格式体と非格式体に二分される。格式体は年齢や職業、地位などの与えられた社会的規範によって選択される文体であり、非格式体は格式を整えなくてもいいほど近い仲や親しい間柄で使用される文体である(국립국어원 2005)。韓国語の6つのスピーチレベルのうち、丁寧体の합니다体と하오体、非丁寧体の하네体と한다体が格式体とされ、丁寧体の해요体と非丁寧体の해体が非格式体とされる。

以上のように韓国語は、話し手が聞き手との社会的関係や発話場面などによってスピーチレベルを使い分ける言語であるが、(1)のように話し手が同一の聞き手に向けた一連の会話で複数のスピーチレベルを使用することもある(訳は筆者による)。

(1) 1 : 일요일날 일찍 올 수 있어요?

「日曜日、早く来られますか。」

2 : 저는 태권도 댄스에 항상 일찍 가요.

「私はテコンドーのためいつも早めに行きますよ。」

1 : <@난 그 태권도가 너무 웃겨!@>

「私はあのテコンドーが面白すぎる。」

2 : <vocal desc=`웃음, 하하`> 같이 배우시죠!

「一緒に学びましょう！」

강은숙(2005:75)

スピーチレベルの混用は、(i)丁寧体と非丁寧体の混用、(ii)丁寧体同士の混用、(iii)非丁寧体同士の混用の3つのパターンに分けることができる。また、スピーチレベルの移行方向に焦点を当てると、聞き手に対する待遇度が高い方から低い方へ移行するダウンシフト(down shift)と、低い方から高い方へ移行するアップシフト(up shift)に分けられる。

本稿では、スピーチレベルの移行方向に焦点を当て、韓国語におけるスピーチレベルの現れ方を分析・考察する。

2. 先行研究と研究目的

スピーチレベルシフト現象を含むスピーチレベルの運用には、年齢や地位などの上下関係とともに、親疎関係も影響を与えている(고영근 1974, 서정수 1984, 유송영 1996, 이정복 2001, 한길 2002, 성기철 2007)。例えば、유송영(1996)で述べられたように丁寧体で話し合う関係であっても連帯感を強調したい場合は非丁寧体へのダウンシフトが可能になる。しかし例えば、交通事故が起きた時の「도대체 눈을 어디다 두고 운전하는 겁니까? 운전할 땐 정신 똑바로 차리라고 면허 딸 때 안 배웠어?(一体どこを見て運転しているんですか。運転する時は気を引き締めろって免許取るとき教わらなかった?)」のような喧嘩口調の発話におけるダウンシフトは、相手に対する連帯感や親密感を表すために行われたとは言い難い²⁾。

また前述したように、スピーチレベルの混用は(1)のような(i)丁寧体と非丁寧体の混用以外にも、(ii)丁寧体同士の混用、(iii)非丁寧体同士の混用が可能である。(ii)に該当する例を(2)に、(iii)に該当する例を(3)に示す。

(2) 아, 내 집에 내 손님을 맞아들이는데 누가 뭐랄 사람이 있습니까?

어려워 말고 내 집처럼 편히 쉬세요.

「私の家に私のお客さんを迎えるのに誰が文句をつけるんですか。

遠慮せず自分の家だと思ってごゆっくりお休みください。」

(한길 2002:190)

(3) 그건 좀 억울한 생각이 안 드니? 세상에 나왔다가 겨우 물고기 밥이 나 돼?

「それは少し悔しいと思わない?世の中に出て魚の餌になるだけなんて。」

(한길 2002:182)

このような(ii)丁寧体同士の混用と(iii)非丁寧体同士の混用について、한길(2002)は합니다体と해요体、また한다体と해体の間には格式体と非格式体という違いはあるが、聞き手に対する待遇度にはそれほど大きな差がないため、混用が可能だと述べており、(2)と(3)は格式体と非格式体の混用だとしている。

しかし、待遇度が近いスピーチレベル同士がいつも無条件に混用されるわけではない。한길(2002)が上げた(3)は、同年齢の友達や年下の人には使えるが、いくら親しい間柄であっても年上の人に対しては使えない。국립국어원(2005)は、親しい間柄であっても年上の人に対しては한다体の疑

問形と命令形は使用できないと指摘した。例えば、非丁寧体を使える程親しい女性に対し、「언니, 뭐 해?(姉さん、何している?)」や「언니, 이 책 받아.(姉さん、この本受け取って。)」は可能であるが、「언니, 뭐 하니?(姉さん、何している?)」、「언니, 이 책 받아라.(姉さん、この本受け取って。)」は不可能とされる(국립국어원 2005:228~229)。これは文の種類がスピーチレベルシフトの現れ方に影響を与えていることを示唆しているといえる。しかし、국립국어원(2005)は文の種類がなぜスピーチレベルの運用に影響を与えるかについては言及していない。

そこで本稿では、(i)(ii)(iii)におけるスピーチレベルシフトの現れ方³⁾を文の種類を基準として分析し、その分析結果に基づき、なぜそのような現れ方を見せるかについて考察を行う。なお、丁寧体の하오体と非丁寧体の하네体は、限定された間柄でのみ使用されるという指摘があるため(국립국어원 2005)、以下では하오体と하네体を除いた합니다体、해요体、해体、한다体による発話を分析する。また、文の種類を基準とするため、平叙・疑問・命令・勧誘を表す形態をすべて有するものだけを対象とする。具体的な形態を表1に示す。

表 1. 本稿で考察対象とする形態

		平叙	疑問	命令	勧誘
丁寧体	합니다体 ⁴⁾	<u>믿습</u> 니다	<u>믿습</u> 니까	<u>믿으</u> 십시오	<u>믿으</u> 십시오
	해요体	<u>믿어</u> 요	<u>믿어</u> 요	<u>믿어</u> 요	<u>믿어</u> 요
非丁寧体	해体	<u>믿어</u>	<u>믿어</u>	<u>믿어</u>	<u>믿어</u>
	한다体	<u>믿</u> 는다	<u>믿</u> 냐 / <u>믿</u> 니	<u>믿어</u> 라	<u>믿</u> 자

해体の終結語尾「-지」も平叙・疑問・命令・勧誘を表す形態であるが、「믿지?(信じているよね?)」から分かるように、再確認や同意要求などを表し、同じ해体の終結語尾「-아/어」と比べて中立的な意味を表すとは言いにくい。そのため、本稿の考察対象から外すことにする。なお、中途終了文や言いさし文のように待遇度を判断しにくいものも考察対象から外す。

データは、映画のシナリオを用いる。映画は作家によって作られたもので、自然な会話とは言い難い。しかし、多様な場面における会話、多様な人間関係による会話が収集できるという利点がある。今回データとして使用した映画は『새드무비』(2005)、『미녀는 괴로워』(2006)、『청춘만화』(2006)の3本(計344分)である⁵⁾。まず、映画の台詞を全て文字化し、スピーチレベルシフトが見られた一連の会話を抜き出した。そして、発話状況に基づき、シフトが行われた理由について考察を行った。今回は、話し手と聞き手の年齢と性別による定量的分析は行わなかった。その理由は台詞の多くが主人公の

発話に集中しており、登場人物別の発話数が均等でなかったためである。また、血縁関係にある者同士の発話や恋人同士の発話は分析の対象から除外した。

3. 分析結果と考察

本研究で考察対象とするスピーチレベルの間で起こり得るシフトと、今回使用した映画で実際に現れたシフトを表 2 に示す。

表 2. 現れ得るシフトと映画で実際に見られたシフト(あり：○, なし：×)

シフトのパターン		現れ得るシフト	実際に見られたシフト
丁寧体と 非丁寧体	down	① 「합니다体→해体」	×
		② 「합니다体→한다体」	○
		③ 「해요体→해体」	○
		④ 「해요体→한다体」	○
	up	① 「해体→합니다体」	×
		② 「해体→해요体」	○
		③ 「한다体→합니다体」	×
		④ 「한다体→해요体」	×
丁寧体同士	down	① 「합니다体→해요体」	○
	up	② 「해요体→합니다体」	○
非丁寧体同士	down	① 「해体→한다体」	○
	up	② 「한다体→해体」	×

表 2 を見てみると、丁寧体から非丁寧体へのダウンシフトは、「합니다体→해体」、「합니다体→한다体」、「해요体→해体」、「해요体→한다体」の 4 通りが理論上可能であるが、今回のデータでは「합니다体→한다体」、「해요体→해体」、「해요体→한다体」の 3 通りが観察された。また、非丁寧体から丁寧体のアップシフトは、「해体→합니다体」、「해体→해요体」、「한다体→합니다体」、「한다体→해요体」の 4 通りが理論上可能であるが、今回は「해体→해요体」の 1 つしか見られなかった。丁寧体間でのシフトは、「합니다体→해요体」、「해요体→합니다体」の 2 通りが理論上可能であり、今回のデータでは 2 つのシフトとも見られた。そして非丁寧体間でのシフトは、「해体→한다体」、「한다体→해体」の 2 通りが理論上可能であるが、今回は「한다体」が会話の基調となっている会話がなかったため、「해体→한다体」しか見られなかった。

以下では、実際の例を上げながら、スピーチレベルシフトの現れ方を確認する。なお、前述したように本研究ではスピーチレベルシフトと文の種類と

の関係に着目することから例文は平叙文、疑問文、命令文、勧誘文の順に上げることとする。また、例文は話し言葉として発されたものであるため、綴字法に合わないものもあるが、発話されたまま記すこととする。

3.1 丁寧体と非丁寧体間でのシフト

3.1.1 丁寧体から非丁寧体へのダウンシフト

今回、データとして使用した映画資料における丁寧体から非丁寧体へのダウンシフトは、「합니다体→한다体」、「해요体→해体」、「해요体→한다体」の3通りが見られた。シフトが行われた会話の話し手と聞き手の年齢の上下関係と文の種類を表3に示す。

表3. 年齢の上下関係と文の種類別に見た「丁寧体→非丁寧体」の現れ方

スピーチレベルシフト	文の種類	平叙	疑問	命令	勧誘
	年齢				
「합니다体→한다体」	年上→年下	○	×	×	×
	同年齢同士	×	×	×	×
	年下→年上	×	×	×	×
「해요体→해体」	年上→年下	○	×	○	×
	同年齢同士	×	×	×	×
	年下→年上	○	○	×	×
「해요体→한다体」	年上→年下	○	×	×	×
	同年齢同士	×	×	×	×
	年下→年上	○	×	×	×

表3に示したように、平叙文によるダウンシフトは「합니다体→한다体」、「해요体→해体」、「해요体→한다体」で見られたのに対し、疑問文と命令文によるダウンシフトは「해요体→해体」でのみ見られた。また、話し手と聞き手の年齢の上下関係別に確認してみると、「합니다体→한다体」のダウンシフトは年上が年下に対してのみ行っていたのに対し、「해요体→해体」と「해요体→한다体」は年上が年下に対しても、年下が年上に対しても行っていた。実際の例を上げながら説明する。

まず、합니다体から한다体へのダウンシフトが行われた平叙文の例を見てみる。(4)は、患者の保護者(A)と医者(B)の会話で、医者が保護者に患者の状態について説明する場面である。

- (4) A: 아니, 그럼 지금 혼수상태란 말입니까?
「じゃあ、今昏睡状態ということですか。」
B: 그냥 주무시고 계십니다.

「ただ寝ていらっしやるだけです。」

아주 편안하게 숙면을 취하고 있어요.

「とても穏やかにぐっすり眠っています。」

의학적으로 설명은 안 되지만 정말 다행입니다.

「医学的に上手く説明は出来ませんが、本当によかったです。」

30 알이면 코끼리도 재우겠다.

「(睡眠薬) 30錠なら象も寝かせられるなあ。」

『미녀는 피로워』

(4)は聞き手に対する待遇度が最も高い함니다体から待遇度が最も低い한다体へのダウンシフトが行われた例である。シフトした下線部の発話は、独話的な性格を帯びている発話で、推測を表す先語末語尾‘-겠-’と共に起している。先語末語尾‘-겠-’と共に起した한다体へのダウンシフトは해요体の会話でも見られた。(5)はオーディション監督(A)とオーディション参加者(B)の会話で、緊張しすぎて演技ができないBに対してAが自分の意見を独り言のように発話する際に한다体へのダウンシフトが見られた。

(5) A1 : 오디션 처음이에요? 「オーディション、初めてですか。」

B1 : 아니요, 한 30 번쯤 왔는데요.

「いいえ。30回程受けましたが。」

A2 : 그런데도 그렇게 떨어요?

「それなのに、そんなに緊張しているんですか。」

화면에서 그러고 있으면 관객들 다 나가겠다. 됐어요. 다음.

「画面でそうしていたら観客たち、みんな出て行ってしまふなあ。

もういいです。次の人。」

『청춘만화』

前で見た(4)の【30 알이면 코끼리도 재우겠다((睡眠薬)30錠なら象も寝かせられるなあ)】は「普通なら致死量の睡眠薬を飲んだにも関わらず、患者がとても太っているため、危険な状態にはならなかった」という意味での発話で、その内容は聞き手側の人物にかかわる情報である。(5)の【화면에서 그러고 있으면 관객들 다 나가겠다(画面でそうしていたら観客たち、みんな出て行ってしまふなあ)】も聞き手にかかわる情報で、(4),(5)とも聞き手への意識がゼロだとは言い難い。このように、丁寧体の会話で見られた한다体へのダウンシフトは、発話に独話性を帯びさせ、それが本音であることを表す時に見られた。함니다体が基調となっている会話で、한다体へダウンシフトした発話は(4)の1例しか見られなかったが、待遇度が最も高いスピーチレベルから最も低いスピーチレベルへのダウンシフトが可能だった理由

は、한다体が推測を表す先語末語尾‘-ㄹ-’と共起したことで、発話の独話性の度合いがさらに強まったためだと考えられる。一方、해요体の会話では(5)のように先語末語尾‘-ㄹ-’と共起した한다体へのダウンシフトは勿論、先語末語尾‘-ㄹ-’と共起していない한다体へのダウンシフトも見られた。(6)は歌手(A)とプロデューサー(B)の会話で、Aが自分を商品扱いするBに対し、自分の心境を述べる際に한다体へのシフトが行われた例である。

(6) A1 : 우리 아빠란 것도 알고 그런 거예요?

「(あの人が) 私の父だということも知っていたのに、そんな(ひどい)ことをしたわけですか。」

B1 : 난 제니한테도 한나한테도 기회를 줬을 뿐이야.

「私はジェニーにも、ハンナにもチャンスを与えただけだ。」

A2 : 어후, 무섭다. 모든 게 상품이었네요.

「ああ、怖い。全てが商品だったんですね。」

『미녀는 괴로워』

(6)では自分の心境を独話的に述べる時にシフトが行われたが、(6)の下線部は(4),(5)と同様に独話性を帯びながらも聞き手を意識した発話であり、相手の冷たいやり方に賛同できない、やり方が残酷だということを表している。前の【어후】という感嘆詞からも話し手が自分の心境を素直に吐露している様子が窺える。

次に、해요体から해체へダウンシフトした例を見てみよう。(7)は患者に対する整形外科医の発話で、ここでは話し手が、自分がかかりの腕を持つ整形外科医であることを自慢げに話す際に해체へのシフトを行っている。

(7) 내가 내 입으로 이런 얘기 하긴 좀 뭐하지만 내가 그 신의 손으로 소문난 이공학이죠. 이러다 내가 노벨상 받는 거 아닌가 몰라.

「自分の口でこんな話をするのもちよっとどうかと思いますが、私がその神の手で噂になっているリ・コンハクです。このままいくと私がノーベル賞をもらうかもしれないなあ。」

『미녀는 괴로워』

(7)の下線部の発話は、聞き手に直接向けた発話というより、話し手が自分の世界に入り込んで発話したもので、独話的な性格を帯びている。しかし、「ノーベル賞をもらえるほどの実力者だ」というアピールは聞き手に向けたものであるため、前で確認した(4),(5),(6)と同様に聞き手への意識がゼロだとは言い難い。(7)は年上が年下に対してダウンシフトを行った例であるが、次の(8)のように年下が年上に対して해요体から해체へダウンシフトした例

も見られた。(8)はコンサートを控えている歌手がプロデューサーに対して発話したもので、話し手が整形手術できれいになった自分の顔が映っているポスターを剥す時、手に怪我をしたという場面である。怪我を心配する相手に対して痛くないと述べる際に解体へのダウンシフトが見られた。

(8) 공연할 거예요. 잘 할 거예요.

「コンサートはやります。上手くやり遂げます。」

근데 이제 이런 건 다 없애요, 더럽고 무서운 거니까.

「でももうこんなものは捨てましょう、汚くて恐ろしいものだから。」

아아, 됐어요. 안 아파.

(ポスターを剥す時、手に怪我をし、相手に止められる)

「ああ、結構です。痛くない。」

『미녀는 괴로워』

シフトした下線部の発話は、独話性を帯びておらず、聞き手に向けた発話にも関わらず解体へのシフトが行われている。(8)で年下が年上に対して解体へのダウンシフトが可能だった理由は、両者の付き合いが長いということ以外に、シフトした発話とその前の発話とつながりを持っているためだと考えられる。【됐어요(結構です)】と【안 아파(痛くない)】はつながりを持つ発話であり、【痛くないから構わないでください】のように1つの文にすることが可能である。日本語でも、後続する主節的な文に従属する文は敬体の会話から常体へダウンシフトを行える場合があるとされる。これは「文的独立度が低い文」(日本語記述文法研究会 2009)と言われるもので⁶⁾、会話の基調が丁寧体であっても文的独立度が低い文はダウンシフトが可能である点で日韓語ともに共通点している。

次に、相手に働きかける疑問文と命令文で非丁寧体へダウンシフトした例を見てみる。해요体が基調となっている会話での疑問文と命令文のダウンシフトは、すべて解体によるものであった。(9)は、行方不明になっていた友人が交番にいるという連絡を受けて交番に駆けつけた女性(A)と警察(B)の会話である。Aの友達は非常に太った女性であるが、交番で再会した時は少し痩せており、それを見たAがBに対して何も食べさせなかったのかと問い詰めながら非難する際に解体へのシフトが見られた。

(9) A1: 애 뭐 좀 먹이지 그랬어요?

「この子、何も食べさせなかったんですか。」

B1: 개 하루 세 끼 꼬박꼬박 챙겨 먹어요.

「その子1日3食欠かさず食べるんですよ。」

A2: 세 끼를 한번에 먹여야죠. 보면 양을 몰라?

「三食分を一度に食べさせなきゃダメでしょう。見れば(見ても)量が分らないの?」

『미녀는 괴로워』

(9)は配慮が足りない相手に対してAが文句を言う場面である。ここでは、相手を問い詰める時に意図的に解体へのダウンシフトを行うことで聞き手に対する待遇度を下げていると考えられる。

最後に、命令文を発話する際に解体へダウンシフトした例を見る。(10)はデビューを目前に控えている歌手のストーカーを捕まえたプロデューサーが、誰の仕業なのかを問い詰める場面である。プロデューサーは最初、丁寧体を使って尋ねていたが、タバコを吸いながら何も答えないストーカーに腹を立て、苛立ちを表しながら命令する時に解体へのシフトを行った。

(10) 이거 언제부딪니까? 누가 시켰어요? 담배 꺼! 꺼!

「これいつからですか? 誰がさせたんですか? タバコ、消せ! 消せって!」

『미녀는 괴로워』

最初は丁寧度が最も高い합니다体を用いていたが、해요体、解体の順にスピーチレベルを下げており、スピーチレベルの下降を通じて、相手に対する話し手の感情の変化が窺える。(9)と(10)で見たように、丁寧体の会話に現れた解体の疑問文と命令文は、話し手が相手に対する不快感を表すために、意図的に用いられたものであり、独話性を帯びない、相手に直接向けた発話であった。ダウンシフトした平叙文が独話性を帯びる場合が多いのに対し、ダウンシフトした疑問文と命令文が独話性を帯びないのは、文の種類別機能がスピーチレベルシフトに影響を与えた結果だと考えられる。국립국어원(2005:85)によると「平叙文は聞き手に何も求めず、ただある事実や現象に関する情報、あるいは自分の考えを伝達する文」で、疑問文は「聞き手に質問して返事を求める文」、命令文は「聞き手にある行動をするように要求する文」とされる。このような文の機能により、聞き手に何かを求めている文とそうでない文に分けることができ、前者には疑問文と命令文が該当し、後者には平叙文が該当する。つまり、疑問文と命令文は聞き手に働きかける文であるため、独話性を帯びにくく、非丁寧体の「聞き手を低める」という待遇度がそのまま伝わり、結果的に待遇度の低下につながると考えられる。

3.1.2 非丁寧体から丁寧体へのアップシフト

韓国語における非丁寧体から丁寧体へのアップシフトは、「解体→합니다体」、「解体→해요体」、「한다体→합니다体」、「한다体→해요体」の4通りが

理論上可能であるが、今回使用した映画資料では「해체→해요체」のシフトしか見られなかった。シフトが行われた会話の話し手と聞き手の年齢の上下関係と文の種類を表 4 に示す。

表 4. 年齢の上下関係と文の種類別に見た「非丁寧体→丁寧体」の現れ方

スピーチレベルシフト	文の種類 年齢	平叙	疑問	命令	勧誘
	「해체→해요체」	年上→年下	×	○	○
同年齢同士		×	×	○	×
年下→年上		×	×	×	×

表 4 に示したように、해체から해요体へのアップシフトは、疑問文と命令文では見られたが、平叙文と勧誘文では見られなかった。また、年上から年下に対してと同年齢同士の会話ではアップシフトが行われたが、年下から年上に対する会話では行われなかった。

実際の例を上げながら説明する。まず、(11)は胸部の手術を受けた患者が、日焼けサロンに行き苦勞したという話を聞いた整形外科医の発話である。

(11) 그래서 이렇게 가리고 3 시간 동안이나 있었어요?

「それで、こんなふうに(胸を)覆って 3 時間も(日焼けマシンの中に)入っていたんですか。」

선텐기 온도 때문에 가슴 터진다고 진짜 터질까 봐?

「日焼けマシンの温度で胸が破れると聞いて本当にそうなると思って?」
그거 다 거짓말이야. 지가 했어.

「それ全部嘘だよ。その子が(手術を)したんだね。」

『미녀는 괴로워』

話し手は聞き手に対し普段は해체で話しているが、(11)では根拠のない噂を信じて 3 時間も苦勞したという相手の話を聞いて、呆れたように発話する際に해요体へのアップシフトを行っている。下線部は疑問文であるが、特に相手に答えを求めているわけではない。それは、話し手が相手の返事を待たず、次の発話を発していることから確認できる。ここでは、賛同できない相手の行動を非難するための前置きとして、해체から해요体へシフトを行うことで相手との心的距離を確保していると考えられる。

次に命令文を発話する際に해요体へアップシフトした例を見てみる。(12)はオンエア 1 分前なのに舞台に出ず、男の人を抱きしめて泣いている歌手に対する放送局のスタッフの発話である。

(12) 아예 여관을 가세요. 예? 아, 빨리 안 올라가, 증말?

「初めからホテルに行ってくださいよ。うん? あ、本当に早く上がっててば。」

『미녀는 괴로워』

話し手は相手の行動に呆れて苛立ちを感じながら혜宥体を用いている。ここでも、혜体から혜宥体へアップシフトを行うことで、相手の言動に同調できないという話し手の気持ちを表していると考えられる。また、話し手は発話内容の実現を求めておらず、その点においても(11)と類似している。

次の例でも命令文を発話する際に혜宥体へのシフトが見られた。(13)は同じ年の男子学生(A)と女子学生(B)の会話で、Aの発話でアップシフトが行われた。Aは大学でテコンドーを専攻する学生であるが、大会で毎回優勝する同じ体級(体重別階級)の友達との試合を避けるため、体重減量に励んでいる時、幼なじみであるBがプライドを傷つける発言をする場面である。

(13) A1: 야, 물 좀 줘. 죽을 거 같애.

「おい、ちょっと水くれ。死にそうだ。」

B1: 너 영혼이랑 붙는 거 무서워서 체급 낮춘 거지?

「あんた、ヨンフンと試合するのが怖くて体級下げたんじゃ?」

A2: 니 맘대로 생각하세요. 「勝手にそう思ってください。」

『청춘만화』

AとBは非常に親しく、普段非丁寧体で話し合う間柄である。しかし、ここでは不愉快なことを言う相手を突き放すため、会話の基調となっている혜体から혜宥体へシフトを行ったと考えられる。また、A2では(12)と同様に尊敬を表す先語末語尾‘-시’も使われており、相手に対して心的距離を置いていることをより効果的に表している。

以上のように、韓国語における非丁寧体から丁寧体へのアップシフトは、「혜体→혜宥体」でのみ見られた。シフトした発話の文の種類を見ると、疑問文と命令文であり、相手に嫌味を言う時や相手に対する苛立ちを表し、相手を突き放す時にシフトが行われていた。聞き手に働きかける文に丁寧体を用いているにも関わらず、そこからは聞き手を高めているという丁寧さはなく、心的距離を確保するためのアップシフトと考えられる。

3.2 丁寧体間でのシフト

丁寧体間でのシフトは「합니다体→혜宥体」のダウンシフトと「혜宥体→합니다体」のアップシフトの2通りあるが、今回のデータではいずれのパターンも見られた。

합니다体は聞き手を非常に高める際に用いられるスピーチレベルで、初対面の人やお客さんのように礼儀を整えて話さなければならない人に対して、また会議や演説、発表、討論、報告などのような公式的な場面で相手を高めるために使用される「格式体」である。一方、해요体は聞き手を普通に高める際に用いられるスピーチレベルで、格式を整えなくてもいいほど親しい関係の相手に対し、距離を縮め、親近感や情感的な態度を表す際に使用される「非格式体」である。つまり、합니다体と해요体の間で見られるシフトは、한길(2002)の指摘通り、格式体と非格式体のシフトともいえる。シフトが見られた会話の話し手と聞き手の年齢の上下関係と文の種類を表5に示す。

表5. 年齢の上下関係と文の種類別に見た「丁寧体間でのシフト」の現れ方

スピーチレベルシフト	文の種類				
	年齢	平叙	疑問	命令	勧誘
「합니다体→해요体」	年上→年下	×	×	○	×
	同年齢同士	×	×	×	×
	年下→年上	×	×	○	×
「해요体→합니다体」	年上→年下	×	×	×	×
	同年齢同士	×	×	×	×
	年下→年上	○	×	×	×

表5に示したように、「합니다体→해요体」のダウンシフトは命令文でのみ見られ、「해요体→합니다体」のアップシフトは平叙文でのみ見られた。また、話し手と聞き手の年齢の上下関係を確認してみると、「합니다体→해요体」のシフトは年上から年下に対する会話と、年下から年上に対する会話で見られ、「해요体→합니다体」のシフトは年下から年上に対する会話でのみ見られた。実際の例を見ていこう。

まず、합니다体から해요体へダウンシフトした命令文の例である。(14)は医者(A)と患者(B)の会話で、AがBに病名を告げる場面でシフトが見られた。

(14) A1 : 언제부터 아프셨습니까? 「痛みはいつからあったんですか。」

B1 : 네? 그야 사고 났을 때부터…….

「え? それはまあ(交通)事故が起こった時から……。」

A2 : 아니, 그거 말구요. 「いや、それじゃなくて……。」

계속 위장 장애로 시달려 오지 않으셨습니까?

「ずっと前から胃腸の痛みで苦しめられてきたんじゃないですか。」

통증이 꽤 심했을 텐데…….

「痛みが大変酷かったと思いますが……。」
지금부터 제 얘기 잘 들으세요.
「今から私の話をよくお聞きください。」
남편 분한테는 미리 말씀드렸습니다.
「もうご主人には話しておきました。」

『새드무비』

この例は、「医者」と「患者」という関係と、話題の深刻性から格式体の 합니다体が会話の基調を成しているが、命令文を発話する際に해요体への다운시프트が見られた。命令文は、聞き手がある行動を行うよう要求する文である。そのため、聞き手に与える負担度が高く、相手に対する配慮が必要とされる場合が多いが、ここでは합니다体より聞き手に対する待遇度が低い해요体への다운시프트が行われている。命令を行う時、합니다体から해요体へ다운시프트した例は他にも見られた。(15)と(16)は放送局、撮影現場におけるスタッフの発話である。放送、撮影が始まるまであとどれぐらい時間が残っているかを言う際には합니다体を用い、準備するように、あるいは急ぐようにと命令文を発話する際には해요体を用いている。

(15) 방송 1분 전입니다. 준비하세요.
「オンエア、1分前です。準備してください。」

『미녀는 괴로워』

(16) 촬영 10분 전입니다. 서둘러 주세요.
「撮影、10分前です。急いでください。」

『청춘만화』

話し手が意図的に威圧的な態度で命令を行う場合を除いては、聞き手への負担を減らすための工夫が行われるのが一般的である。例えば、日本語でも常体の命令形「食べろ」に対して「食べなさい」という丁寧体の命令形が存在するが、実際の丁寧体の会話では「~なさい」ではなく、依頼形式の「~てください」が多く用いられる。韓国語でも丁寧体を使うべき相手に対して配慮を表すためには待遇度・丁寧度が最も高い합니다体を用いるのが自然であると考えられる。しかし、今回の映画資料では、丁寧体の会話における命令文が、합니다体の命令形「-십시오」で実現された発話は1例も見られなかった。この理由について本稿では、格式体と非格式体という区別がスピーチレベルの選択に影響を与えていると考える。前述したように、합니다体は格式体で、話し手と聞き手の社会的・心的距離を明示化するスピーチレベルである。一方、해요体は非格式体で心的距離を縮め、親近感や情感的な態度を表すスピーチレベルである。韓国語では相手に何かを要求する時、相手との社

会的・心的距離を明示化する格式体ではなく、親近感や情感的な態度を表す非格式体を用いることで、自分の要求がより受け入れられやすくしていると考えられる。なお、ダウンシフトとはいえ、해요体も합니다体と同様、丁寧体であることに変わりはないため、聞き手もあまり不快に感じることはない。

次は、해요体が基調となる会話で합니다体へアップシフトした平叙文の例である。(17)はテコンドー学科の学生(A)がテコンドー学科の監督(B)に対して합니다体を用いた例である。

(17) A1 : 감독님, 저 다음 시험 멘 체급 올릴 겁니다.

「監督、わたくし、次の試合の時は体級あげます。」

B1 : 그럼 영훈이랑 붙겠다고? 너 금메달 따기 싫구나.

「じゃあ、ヨンフンと試合するっていうのか? おまえ、金メダル取りたくないのか?」

A2 : 이걸 뭔가 이상해요. 이걸 진짜 제가 아니잖아요. 체중에 절 맞춘 거잖아요. 꼭 일등 하는 게 중요한 건 아니잖아요.

「これはなんかおかしいです。これは本当の私じゃないじゃないですか。体重に私を合わせたんじゃないですか。一位になることだけが重要なわけではないじゃないですか。」

『청춘만화』

(17)は勝てる試合に出るために、無理して体重を減らしている選手と監督の会話で、選手が次の試合では自分の体重に合わせて試合に出るという意志を表す際に합니다体を用いている。話し手が自分の意志を表す際に합니다体へアップシフトした例は他にも見られた。(18)は、映画制作会社の人(A)とシナリオ作家(B)の会話で、シナリオを売るよう提案するAに対してBが断る場面である。

(18) A : 이거 우리 영화사에 넘겨요. 내가 작가 붙여서 고쳐 볼 테니까.

「このシナリオ、うちの映画社に譲ってください。私が他の作家に頼んで直しますから。」

어, 김팀장, 준비한 계약서 좀 가져 와요.

「(インターホンで) あ、キムさん、準備しておいた契約書、持ってきてください。」

B : 전 계약할 수 없습니다. 이 시나리오는 고칠 수 없습니다. 이걸 저 혼자만의 이야기가 아니거든요.

「私は契約できません。このシナリオは直せません。これは私一人だけの物語じゃないんです。」

『청춘만화』

(18)では、Bが友達との思い出を基に書いたシナリオを売ることができないと断固として断る時に합니다体を用いている。(17)と(18)では、話し手の強い意志を表す際に합니다体へアップシフトが行われた点で共通している。この理由を本稿では、합니다体が格式体であることと関係していると考え。シフトを行わず、非格式体である해요体を維持したまま意志を表すと、話し手と聞き手の心的距離が縮められ、親近感や情感的な態度が現れてしまう。そこで話し手は、相手との心的距離を明示化する합니다体へのシフトを行うことで、相手の意見がどうであれ自分の意志を通そうとする強い意志を表すことができる。

합니다体へのアップシフトは、お礼を言う時にも見られた。(19)は職場の同僚同士の会話で、Bの恋人が消防士であることを知っているAが、今夜から雨が降り、梅雨に入るという情報をBに伝える場面である。ここではBがAに感謝の気持ちを伝える時にアップシフトを行っている。

(19) A : 오늘 밤부터 비 온대요. 이제부터 장마라는데요.

「今晚から雨が降るそうです。これから梅雨だそうですよ。」

B : 아, 그래요? 고맙습니다.

「あ、そうですか。(教えてくれて) ありがとうございます。」

『새드무비』

(19)のAとBの間には「恩恵を与えた側－恩恵を受けた側」という関係が一時的に生じているが、Bは格式体である합니다体へアップシフトを行うことで、改まり度を高め、Aに対する感謝の気持ちをより丁寧に表示していると考えられる。

以上のように、합니다体から해요体へのダウンシフトは命令文で見られ、해요体から합니다体へのアップシフトは、話し手が自分の強い意志を表す時や聞き手に感謝の気持ちをより丁寧に表す時の平叙文で見られた。そこには、합니다体が格式体で、해요体が非格式体であるという点が影響していると考えられる。

3.3 非丁寧体間でのシフト

非丁寧体間でのシフトは「해체→한다체」のダウンシフトと「한다체→해체」のアップシフトが理論上は可能であるが、今回使用した映画資料では해체가基調となっている会話しかなく、結果「해체→한다체」のダウンシフトしか見られなかった。

前述したように、해体は聞き手を普通に低める時(국립국어원 2005)、もしくは聞き手を高めない時(한길 2002)に用いられるスピーチレベルで、

해요체と同じく非格式体とされる。一方, 한다体は友達や若い人を非常に低める時(한길 2002, 국립국어원 2005)に用いられるスピーチレベルで, 합니다体と同じく格式体とされる。ここでいう「低める」とは相手を見下したり、ぞんざいな扱いをするという意味ではなく、「高める」に對立する意味である。つまり, 해체と 한다体の待遇度・丁寧度は程度の問題であり, 한다体が相手をけなす際に専用的に用いられるわけではない。具体的な例を上げる前に, 表 6 にシフトが行われた会話の話し手と聞き手の年齢の上下関係と文の種類を示す。

表 6. 年齢の上下関係と文の種類別に見た「非丁寧体間でのシフト」の現れ方

スピーチレベルシフト	文の種類	平叙	疑問	命令	勧誘
	年齢				
「해체→한다体」	年上→年下	○	○	○	○
	同年齢同士	○	○	○	○
	年下→年上	○	×	×	×

年齢の上下関係で見ると「해체→한다体」のシフトは, 年上から年下に対して, 同年齢同士, 年下から年上に対してのすべてで観察された。文の種類に着目すると, 年上から年下に対する会話と同年齢同士の会話では, 平叙文, 疑問文, 命令文, 勧誘文のすべての文でシフトが行われたのに対し, 年下から年上に対する会話では平叙文でのみダウンシフトが行われていた。実際の例を文の種類別に見ていこう。

まず, (20)は交通事故という場面におけるタクシー運転手の発話で, 事故を起こした人に対して脅迫調で自分の意志を述べる際に 한다体の平叙文が用いられた例である。

(20) 아줌마, 빨리 내려. 빨리 안 내려? 내가 아주 1년은 드리눅는다.

「おばさん、早く降りて。早く降りてってば。思い切って1年は寝そべるぞ(入院するぞ)。」

『미녀는 괴로워』

3.2 で見てきたとおり, 丁寧体が基調となっている会話で話し手の強い意志を表す際には, 格式体の 합니다体が選択された。(20)のように非丁寧体が基調となっている会話で, 話し手が自分の意志を表す際に 한다体が選択される理由も 한다体が格式体であるためだと考えられる。(20)の下線部は, 相手の意志とは関係なしに, 話し手が自分の意志を一方向的に告げるという「宣言」に近いものとして, 平(2009)はこのような宣言的で一方向的な 한다体の意志表現は相互的な対話でないものだと述べた。ここでは, 格式体を用いて相手と

の心的距離を確保することで、相手の意見がどうであろうと自分の意志を通そうという強い意志が窺える。

次の(21)は、小学生の女の子が同い年の男の子に対して発話したもので、鼻水が出ていることを知らせる際に한다体へのシフトが行われている。

(21) 너 봤어? 낙서 말이야.

「ねえ、見た? 落書き。」

너 코 나왔다. 자, 닦아.

「ねえ、鼻水出てるよ。(ハンカチを渡しながら) 拭けば?」

그냥 가져. 버리던지.

(ハンカチで鼻をかんで返そうとする相手に)

「あげる。捨ててもいいし。」

『청춘만화』

(21)では相手が気づいていないことを教える際に한다体へのシフトが行われている。下線部の発話は、目の前の情報をただ述べたものであり、聞き手に対して親近感や情感的な態度を表す必要がない。そのため、(21)で해体から한다体へのダウンシフトが可能だったと考えられる。

続いて、疑問文を発話する際に한다体へシフトした例を見てみる。まず、(22)は同い年の女性同士の会話で、整形手術を受けたことを隠すために、自分に会いにきた父親を無視した A に対し、B が冷たい態度をとる場面である。B は、A の父親を自分の家に泊ませ、A のコンサート会場まで連れてきており、自分の父について尋ねる A に嫌味を言う際に한다体へのダウンシフトを行っている。

(22) A : 공연장에 아빠 모시고 왔어? 「公演場に父を連れてきてくれた?」

B : 무슨 아빠? 아, 그 아저씨?

「お父さんってどういうこと? ああ、あのおじさん?」

어제 우리 집에서 주무셨어. 「昨日うちでお泊りになったの。」

병원까지 갔었는데 거긴 여관이 아니더라? 문 잠겼더라고.

「(入院中の) 病院まで行ったんだけど、あそこはホテルじゃないんだよね。もう閉まっていた。」

그리고 니 콘서트는 보셔야 되지 않니?

「それからあんたのコンサートはご覧になるべきじゃないの?」

너 싫으면 말해. 「嫌なら言って。」

하긴 지금 너한테 그 아저씨가 뭐가 중요하겠냐?

「まあ、今のあんたにあのおじさんはどうでもいいだろうけど。」

『미녀는 괴로워』

(22)の下線部はいずれも修辞疑問文であり、それぞれの発話は「状況がどうであれ、自分の娘のコンサートは見るべきである」、「父親も眼中にないほど、あなたは変わってしまった」ことを意味している。BはAを非難する目的からスピーチレベルの待遇度を下げて嫌味を言っている。

한다体の疑問文が常に相手への非難や嫌味を表す際に用いられるわけではない。李翊燮 他(2004)は、한다体が気の置けない友達にも用いられるとし、例えば大学入学後、新たに出会った同じ学科の友達に한다体で何か尋ねるのはぎこちなく、最初は해体で話し、少し親しくなった後に한다体を使うようになるのが一般的な過程だとしている。この説明から한다体は、相手を非常に低める時に用いられるスピーチレベルであると同時に、話し手と聞き手が親しい間柄であることの表れとしても使用されることが分かる。(23)はある女性が幼なじみの男性に発話したもので、相手に同意を求める際に해体から한다体へのダウンシフトを行っている。

(23) 너무 하얗지 않은 종이가 좋구 무엇보다 이 오래된 책들의 작은 글씨가 마음에 들어.

「あまり白くない紙がいいし、何よりもこの古い本の小さい字が気に入った。」

집중하게 되잖아. 「集中しちゃうじゃん。」

이 안에 어떤 글자가 숨어 있나 보물 찾기 하는 기분.

「この中にどんな文字が隠れているか宝探しをしている気分。」

그리고 진짜는……, 야, 좀 특별해 보이지 않냐? 독서광인 거 같잖아.

「それから本当は……、ねえ、なんか特別に見えない? 読書好きみたいじゃん。」

『청춘만화』

(22)では한다体の疑問文が相手を非難したり、嫌味を言ったりする時に用いられていたが、(23)では聞き手を親しい相手と見なす時に用いられている。

矛盾ともいえるこのような用法は、命令文でも見られた。(24)は女友達同士が喧嘩する場面で、AがBに対し偉そうにアドバイスする時に한다体の命令文へのシフトを行っている。

(24) A1 : 이 남자도 과연 로맨스를 꿈꿀까?

「この男の人も本当にロマンスを夢見ているのかな?」

물건 팔아 먹으려는 건 아니구?

「(名刺を見せながら)商品を売ろうとしているんじゃない?」

B1 : 너 내 가방 뒤졌냐? 「あんた、私のかばん盗み見したの?」

A2 : 남의 옷을 몰래 입었으면 주머니는 비우는 게 예의 아니야?

「人の服を内緒で着たならポケットは空にしておくのが礼儀って
いうもんじゃないの?」

로맨스도 좋고 다 좋은데 절대 물건은 사지 마라.

「ロマンスでも何でもいいけど、絶対、物は買うな。」

『미녀는 괴로워』

B가デートの時、Aの服を無断で着て行ったのだが、服のポケットに入れておいた名刺のせいでそれがばれてしまった状況である。Aは自分の服を何も言わずに着たことに対して怒っており、彼があまりかわいくないあなたと付き合う目的は、自分の会社の商品を売るためであるから、物は絶対買わないようにと話している。A2は「物を買うな」というアドバイスではあるが、その発話に至るまでの内容から好意的なものではないことが分かる。さらに、待遇度が最も低い한다体へのシフトも行っていることから、Bに対するAの不快感がより明確に表されている。

一方、次の(25)は女子大生(A)と友達の父親(B)との会話で、BがAに対して心的距離を縮めるために한다体の命令文を用いている。

(25) A : 아저씨, 지환이 팬찮은 거죠?

「おじさん、ジファン大丈夫ですよ?」

B : 팬찮을 거야. 재 얼굴 좀 봐라. 웃고 있잖아.

「大丈夫だろう。あいつの顔見てみる。笑っているじゃない。」

『청춘만화』

(25)の下線部は、交通事故に遭い、手術を受けた後、病室で寝ている息子を心配するAにBが発話したもので、ここでは相手に対する不快感は表れていない。むしろ、心配しているAを安心させようとする発話である。このように、한다体のダウンシフトは、発話状況や話し手の意図によって、相手に対する不快感が表される場合もあれば、表されない場合もあることが確認できる。

最後に、해体が基調となる会話で、勧誘文を発話する際に한다体へダウンシフトした例を見てみる。(26)は男友達同士の会話で、旅に出て1年ぶりに現れたBに対して、Aがたまには連絡しようと話す際に한다体へのシフトが見られた。

(26) A1 : 1년 넘게 연락 한번 안 한 건 니가 좀 심했어.

「1年以上一度も連絡しなかったのは、ちょっと酷いよ。」

B1 : 미안하다. 대한민국 참 구경할 게 많더라고.

- 「すまない。韓国、見どころが多くてさ。」
 A2 : 정리가 좀 된 얼굴인데……. 아닌가?
 「落ち着いた顔なんだけど……。違うかな。」
 B2 : 조금만 더 돌아다니면 될 거 같은데…….
 「もう少し歩き回ったら落ち着きそうだけど……。」
 A3 : 연락은 좀 하자. 「ちょっと連絡はしよう。」

『청춘만화』

今回のデータで、해体の会話で現れた非丁寧体の勧誘文は、すべて한다体によるものであった。非丁寧体の勧誘文が한다体によって実現される傾向が強いことは、金(2009)も指摘している。해体の場合、例えば「먹어(食べて)」と「먹어(食べよう)」のように命令形と勧誘形が同形であるため、「빨리(早く)」や「같이(一緒に)」のような副詞が伴わないと、命令文なのか勧誘文なのか曖昧な場合が生じ得る。一方、한다体は「먹어라(食べろ)」と「먹자(食べよう)」のように命令形と勧誘形が異なる形であるため、用いられた形態だけでその発話が命令文なのか勧誘文なのか判断できる。このような背景により、해体が基調となっている会話であっても、勧誘文を発話する時には한다体を用いることで、生じ得る曖昧性を回避しているといえる⁸⁾。韓国語のスピーチレベルシフトは、聞き手に対する話し手の心的距離の置き方以外に、生じ得る曖昧性を回避するための手段として現れることが確認できる。

4. まとめ

本稿では、韓国語におけるスピーチレベルの混用現象を(i)丁寧体と非丁寧体の混用、(ii)丁寧体同士の混用、(iii)非丁寧体同士の混用の3つのパターンに分け、ダウンシフトかアップシフトかというシフトの方向性に焦点を当てて考察を行った。

まず、(i)の「丁寧体→非丁寧体」の考察結果を見てみると、ダウンシフトした平叙文は해体と한다体によるもので、独話性を帯び、本音を吐露していることを表す発話や主節的な文に従属可能な文的独立性が低い発話でダウンシフトが見られた。疑問文と命令文におけるダウンシフトはすべて해体によるもので、いずれも聞き手に対して不快感を表す発話であった。文の種類によってこのような違いが見られる理由について、本稿は平叙文がある事実や自分の意見を伝える文で、ダウンシフトによって独話性を帯びることができると対し、疑問文と命令文は聞き手に働きかける文であるため、ダウンシフトがそのまま待遇度の低下につながるためだと考える。(i)における「非丁寧体→丁寧体」のアップシフトは、「해体→해요体」でのみ見られた。シフトした文の種類を確認してみると、疑問文と命令文のように聞き手に働きかける文で、相手への嫌味や苛立ちを表し、相手を突き放す時にシフトが行

われていた。いずれも話し手が聞き手に対する心的距離を確保するためのもので、聞き手を高めているような効果は見られなかった。次に、(ii)の考察結果を見てみると、まず「합니다体→해요体」のダウンシフトは命令文で見られ、それには해요体が親近感や情感的な態度を表す非格式体であることが関係していると考えられる。「해요体→합니다体」のアップシフトは、話し手が自分の強い意志を表す時や感謝の気持ちを伝える時の平叙文で見られたが、それには합니다体が聞き手との心的距離を明示化する格式体であることが関係していると考えられる。最後に(iii)の考察結果を見てみると、いずれも해요体が会話の基調になっており、平叙文、疑問文、命令文、勧誘文のすべての文で한다体へのダウンシフトが見られた。平叙文では、話し手が自分の意志を強く表す時や目の前の情報をそのまま描写する時など、聞き手に対して親近感や情感的な態度を表さない、もしくは表す必要がない時に해요体から한다体へのダウンシフトが行われた。一方、疑問文と命令文では、聞き手に対して不快感を表す目的から待遇度を下げるために한다体へダウンシフトした場合もあったが、逆に待遇度が最も低いスピーチレベルを用いても許されるほど話し手と聞き手が親しい関係であることを表す場合にも한다体へのダウンシフトが見られた。最後に勧誘文の考察結果を見てみると、非丁寧体の勧誘文はいずれも한다体によるもので、これは命令と勧誘を同じ形態で表す해요体を用いた時に生じ得る曖昧性を回避するための機能分担が働いた結果であった。

以上のように、本稿の考察結果により、文の種類やスピーチレベルの格式性の有無、スピーチレベル別機能分担がシフトの現れ方に影響を与えていることが明らかになった。また、ダウンシフトが聞き手に対する不快感を表す時にも、聞き手に対する親近感を表す時にも現れるなど、同じ方向のシフトで相反した談話効果が得られること、それは発話状況や話し手の意図によって決定されることが明らかになった。今後は自然会話をデータとし、対象とする形態を増やししながら、談話構造の観点からも分析したいと考える。

《註》

- 1) 原文では「유대(紐帯, solidarity)」という用語を用いている。
- 2) メイナード(2004)によると、日本語でもこのように相反した使い方が見られる。
- 3) (i)における丁寧体から非丁寧体へのダウンシフトについては、日韓対照言語学的な観点からも研究が行われており、代表的なものとして金珍娥(2002)、申媛善(2007)、李恩美(2008)が上げられる。
- 4) 합니다体の命令形と勧誘形には主体尊敬の先語末語尾‘-시-’が共起している。
- 5) 日本語との対照研究を見据え、データとする韓国映画は日本でも上映され、字幕付きのDVDが入手できる作品に限った。また、(i)時代背景が現代であること、(ii)台詞が標準語であること、(iii)多様な場面、多様な人間関係による台詞が収集できることを選択基準

とした。

6) 日本語記述文法研究会(2009)は、「文的独立度が低い文」では丁寧体から非丁寧体へのダウンシフトが行われる場合があると述べながら、次の例を上げた。

例) a. 今、親知らずの治療をしているのですが、右下の親知らずは歯茎の外に生えてきた時点ですでに虫菌になっていた。左下の親知らずは生えてくるなり上の歯とかみ合わず口内炎ができた。それで左右をほぼ同時に抜くことになってしまったのです。

b. 今、親知らずの治療をしているのですが、右下の親知らずは歯茎の外に生えてきた時点ですでに虫菌になっていて、左下の親知らずは生えてくるなり上の歯とかみ合わず口内炎ができ、それで左右をほぼ同時に抜くことになってしまったのです。

日本語記述文法研究会(2009:273~274)

日本語記述文法研究会(2009)は、「すでに虫菌になっていた」と「口内炎ができた」を従属節、後ろの「それで左右をほぼ同時に抜くことになってしまったのです」を主節だとしており、後続する主節に従属する文は文的独立度が低く、そのため非丁寧体である常体で現れる場合があると説明した。

7) 呉泰均(2010)もスピーチレベルの使い分けを「一時的な力関係」の概念で説明している。

8) 生じ得る曖昧性を回避するための機能分担であれば、命令文で丁寧体を用い、勧誘文で敬体を用いても問題ないように思われる。命令文で敬体が、勧誘文で丁寧体が選択されやすい理由は、命令文と勧誘文が聞き手に与える負担度にそれぞれ違いがあるためと考えられる。詳しい内容については金(2009)、金(2012)を参照されたい。

《参考文献》

- 李翊燮・李相億・蔡琬 著, 梅田博之 監修, 前田真彦 訳(2004)『韓国語概説』大修館書店
- 李恩美(2008)「日本語と韓国語の初対面二者間会話における対人配慮行動の対照研究: ディスコース・ポライトネス理論の観点から」東京外国語大学大学院 博士論文
- 呉泰均(2010)「日本語聞き手待遇表現の語用論的機能: 丁寧体選択におけるストラテジーの関与」『北海道大学大学院文学研究科研究論集』10 北海道大学
- 金アラン(2009)「韓国語の非丁寧体のスピーチレベルシフトに関する社会言語学的研究- 年齢・男女差及び文の種類を中心に-」東北大学大学院 修士論文
- 金アラン(2012)「日韓語におけるスピーチレベルシフトに関する対照研究」東北大学大学院 博士論文
- 金珍娥(2002)「日本語と韓国語における談話ストラテジーとしてのスピーチレベルシフト」『朝鮮学報』183 朝鮮学会
- 申媛善(2007)「日本語と韓国語における文末スタイル変化の仕組み-時間軸に沿った敬体使用率の変化に着目して-」『日本語科学』22〔特集〕コーパス日本語学の射程 国立国語研究所
- 平香織(2009)「会話における現代朝鮮語の意志表現-‘nta’を中心として-」第23回社会

言語科学大会予稿集

- 日本語記述文法研究会 編(2009)『現代日本語文法 7 第 12 部談話 第 13 部待遇表現』くろしお出版
- メイナード, K・泉子 (2004)『談話言語学 日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』くろしお出版
- 강은숙(2005)「한국어 모어화자의 화계 변동에 관한 연구-사회적 관계와 친밀도를 중심으로-」연세대학교교육대학원 석사논문
- 고영근(1974)「現代國語의 尊卑法에 대한 研究」『語学研究』10-1 서울대학교어학연구소
- 국립국어원(2005)『외국인을 위한 한국어 문법 1-체계 편』커뮤니케이션북스
- 유송영(1996)「국어 청자 대우 어미의 교체 사용(*switching*)과 청자 대우법 체계-힘(*power*)과 유대(*solidarity*)의 정도성에 의한 담화 분석적 접근-」고려대학대학원 박사논문
- 서정수(1984)『존대법의 연구-현행 대우법의 체계와 문제점-』한신문화사
- 성기철(2007)『한국어 대우법과 한국어 교육』글누림
- 이익섭·이상업·채완(1997)『한국의 언어』신구문화사
- 이정복(2001)『국어 경어법 사용의 전략적 특성』태학사
- 한길(2002)『현대 우리말의 높임법 연구』역락

한국어의 스피치레벨 시프트의 양상과 그 원인에 관하여
-영화 시나리오의 분석 결과를 중심으로-

김아란
조치대학

본고에서는 영화 시나리오를 토대로 스피치레벨의 혼용 양상과 그 원인을 분석·고찰하였다. 우선 「정중형→비정중형」의 고찰 결과를 살펴보면, 평서문의 다운시프트는 해체과 한다체에 의해, 의문문과 명령문의 다운시프트는 해체에 의해 실현되었음을 알 수 있었다. 문장 종류에 의해 이와 같은 차이가 나타나는 이유는 평서문이 어떠한 사실이나 자신의 의견을 서술하는 문장인데 반해 의문문과 명령문은 청자에게 대답이나 행동의 변화를 요구하는 문장으로 독백성을 갖추기 어렵기 때문에 다운시프트에 의한 대우도의 하향이 청자에게 그대로 전달되기 때문이라고 여겨진다. 한편 「비정중형→정중형」의 업시프트는 의문문과 명령문에서 나타났는데 모든 예문이 청자의 언행을 비꼬거나 불쾌감을 나타내는 발화로, 화자가 청자와의 심리적 거리를 확보하기 위해 스피치레벨을 의도적으로 이행하였음을 확인할 수 있었다. 다음으로 정중형끼리의 시프트와 비정중형끼리의 시프트를 고찰한 결과, 명령문에서는 자신의 요구가 보다 쉽게 받아들여질 수 있도록 친근감과 정감적인 태도를 나타내는 비격식체가 사용되는 경향이 강한 반면, 청자에게 친근감이나 정감적 태도를 나타내지 않거나 나타낼 필요가 없는 경우에는 격식체가 사용됨을 알 수 있었다. 또한 다운시프트가 청자에 대한 불쾌감을 나타내기 위해 대우도를 낮추는 경우뿐만 아니라, 반대로 상대방에 대한 친근감을 강조하는 경우에도 나타나는 등 동일한 방향의 시프트로 상반된 담화효과를 얻고 있음이 확인되었다. 마지막으로, 비정중형 청유문에서 확인된 한다체로의 다운시프트는 심리적 거리의 조절에 의한 것이라기보다는 해체를 사용하여 동일한 형태로 명령과 청유를 나타낼 경우 발생할 수 있는 애매성을 회피하기 위한 기능 분담의 일환이었다.